

★ 検査依頼医師よりご説明の後、患者様にお渡し頂き検査終了まで保管して下さい ★

造影剤使用検査に関する説明書

- **造影剤**は、体内の病変を造影剤を用いない検査より鮮明に描出する必要があると判断された場合や、診断をより正確に行う必要があると判断された場合に使用します。
- 静脈内に注射された造影剤は、腎機能が正常な方であれば、注射後6時間で90%が尿として排出され、やがて全てが体外へと排出されます。
- 軽微なものも含め、CT・血管造影・尿路撮影用造影剤では5%以下、MRI造影剤では2%以下の方になんらかの副作用が生じると言われています。
- **軽い副作用**として、くしゃみ・かゆみ・発疹・嘔吐・動悸等があり、治療が不要もしくは、1～2回の投薬や注射で改善するものです。
- **重い副作用**として、血圧低下・呼吸困難・意識障害などがあり、発生頻度としてはCT・血管造影・尿路撮影用造影剤で0.04%程度、MRI用造影剤で0.01%程度とされています。
- 非常に頻度は低いのですが、10～20万人に1人程度の割合で死亡例も報告されています。
- ごく稀に数時間から数日後（多くは2日以内）に副作用が現れることがあります。
- これらの症状（副作用）や、なにか異常を感じた場合には、処置・治療が必要な事がありますので、すぐに当院へ来院されるか、かかりつけの医療機関までご連絡ください。
- 検査内容によっては、勢いよく造影剤を注入する為、血管外に造影剤が漏れることがあります。
- この場合、注射した部位が晴れて痛みを伴う事もありますが、通常は時間が経てば吸収されますのでご心配はありません。
- ただし、漏れた量が非常に多い場合には、治療処置が必要となる場合があります、痛みが数日持続する場合もあります。（※ かかる治療費は患者様のご負担となります）

● 食事制限について

- 午前の検査の方は朝食を、午後の検査の方は昼食を摂らないようにして下さい。
※ おおむね検査開始予定時刻の2～3時間前から食事は摂らないようご注意ください
※ クスリを服用するために食事を要する場合には、主治医までご相談ください
- 水分摂取制限はありませんが、過剰摂取は画像に影響を与える可能性があるため、極力控えて下さい。

● 糖尿病薬の制限について

- ヨード系造影剤（CT・血管造影・尿路撮影造影剤）を使用する場合、一部の糖尿病薬を服用中の方は検査前後2日間の休薬が必要です。患者様ご自身で担当医へのご連絡をお願いします。

● 授乳について

- 授乳中で検査を受けられる場合、可能であれば検査前におおよそ2日分の搾乳を行ってください。
- 検査後2日間は、造影剤が母乳に移行する恐れがありますのでご留意ください。

● 検査後の注意点

- 造影剤を早く体外へ排出するために、積極的に水分をとってください。
- 検査後1時間～1週間までの間に発疹等の皮膚症状が現れる場合がありますので、その様な症状が出た場合は当院までご連絡ください。